QuickPatchの作成方法（Express Edition）

注）このドキュメントは、InstallShield 2010 Express Edition を基に作成しています。InstallShield 2010 以外のバージョンでは設定名などが異なる場合もあります。

準備

まずは、ベースとなる Express プロジェクト（Ver1.00.0000）を作成します。

1. Express プロジェクト（SampleProduct.ise）を作成します。

2. [①セットアップの編成]－[一般情報]ビューにて [製品バージョン]を[1.00.0000]とします



3. [②アプリケーション データの設定]－[ファイル]ビューにてファイルを追加します。
   この例では、SampleApp.exe（Ver.1.0.0.0）を追加しています



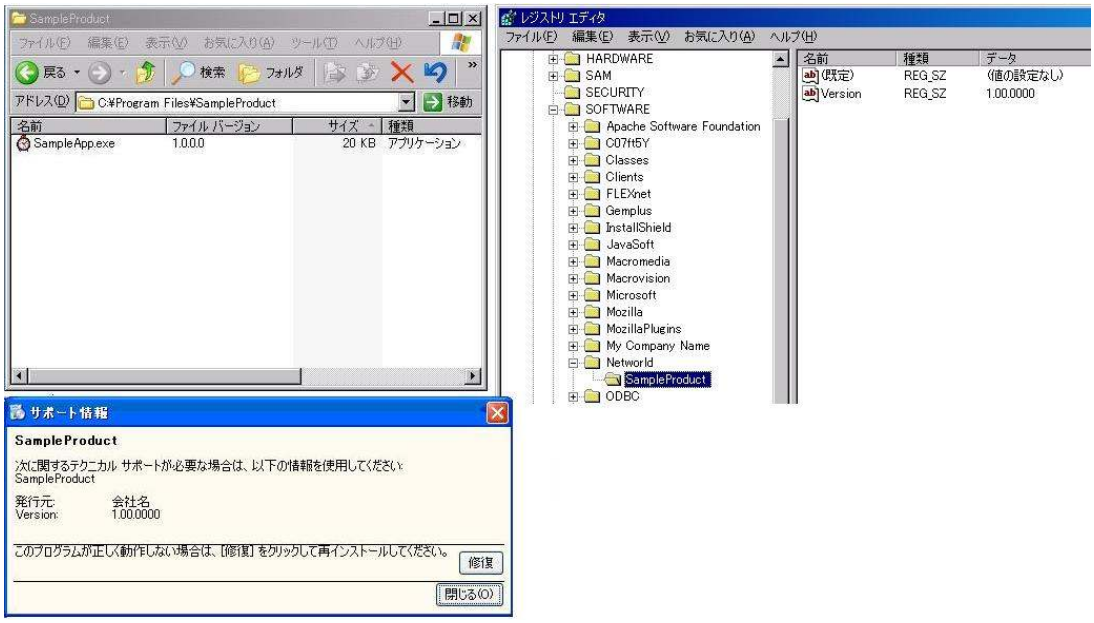
4. [③ターゲット システムの構成]－[レジストリ]ビューにてレジストリエントリを追加します。この例では HKLM¥SOFTWARE¥Networld¥SampleProductというキーの下にVersionという値(1.00.0000)を作成しています



5. [⑥リリースの準備]－[リリース]ビューにて任意のリリースを右クリックして、[ビルド]を選択します。 Setup.exe が生成されます。



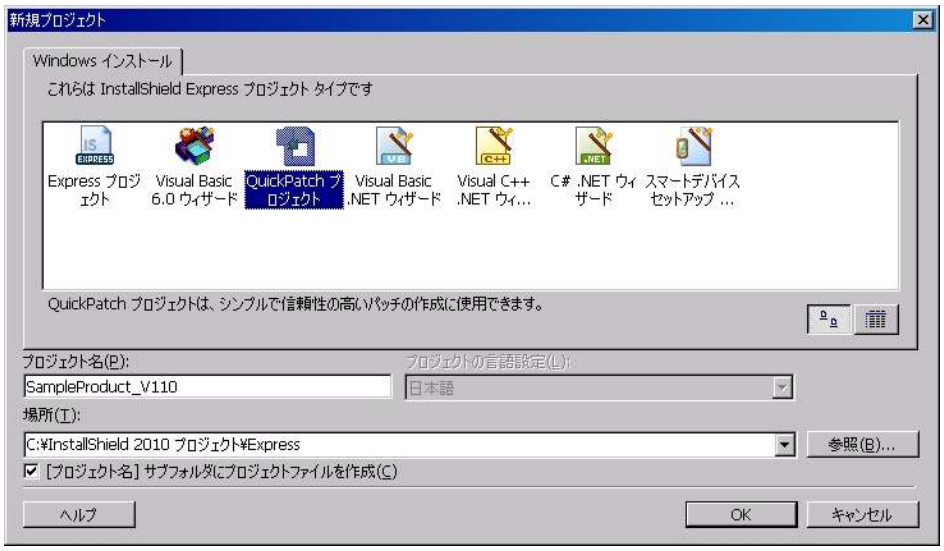
6. 生成されたインストーラを実行します。 [INSTALLDIR]に指定した階層に SampleApp.exe （Ver.1.0.0.0）がインストールされていることおよび指定したレジストリキーが作成されている点を確認します。また、[プログラムの追加と削除]の[サポート情報]で製品バージョンが1.00.0000 となっていることを確認します。



QuickPatch プロジェクトの作成

SampleApp.exe の更新 およびレジストリエントリの追加を行う QuickPatch の作成方法を紹介します。

1. SampleProduct.ise（Ver1.00.0000 プロジェクト）を開いた状態で、[ファイル]－[新規作成]を選択し、プロジェクトタイプに「QuickPatch プロジェクト」を選択して、ファイル名を SampleProduct_V110.ise として保存します。
（QuickPatch プロジェクトではサブフォルダ作成のオプションを使用しても、プロジェクト名のフォルダが作成されませんので、フォルダの作成を行ってからそのフォルダにプロジェクトを保存することをお勧めします）

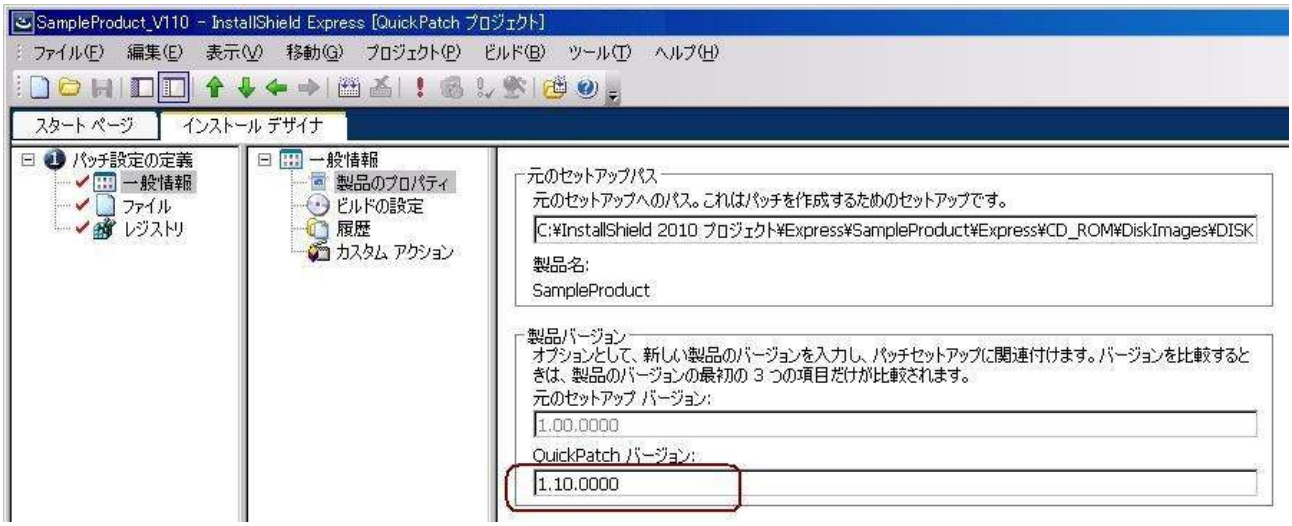


2. 新しい QuickPatch の作成ウィザードが表示されますので、[次へ]ボタンを押して次のダイアログに進みます。
「パッチするリリース」ダイアログにてパッチの対象となるリリースを選択します。



※単一形式のリリース(SimgleImage 等)を指定した場合、非圧縮状態の形式にするため、インストーラ自体が管理モードとして実行されて、インストーラの展開処理が実行されます。(画面上にプログレスバー等が表示されます)

3. 完了ダイアログにて[完了]ボタンを押してウィザードを終了します。SampleProduct.ise に対する QuickPatch プロジェクトが作成されますので、[①パッチの設定]－[一般情報]－[製品のプロパティ]ビューにて[QuickPatch バージョン]のバージョンを [1.10.000] に変更します。



ファイル/レジストリの更新・追加

QuickPatch プロジェクトにてファイルの更新・追加・レジストリエントリの追加の設定を行います。

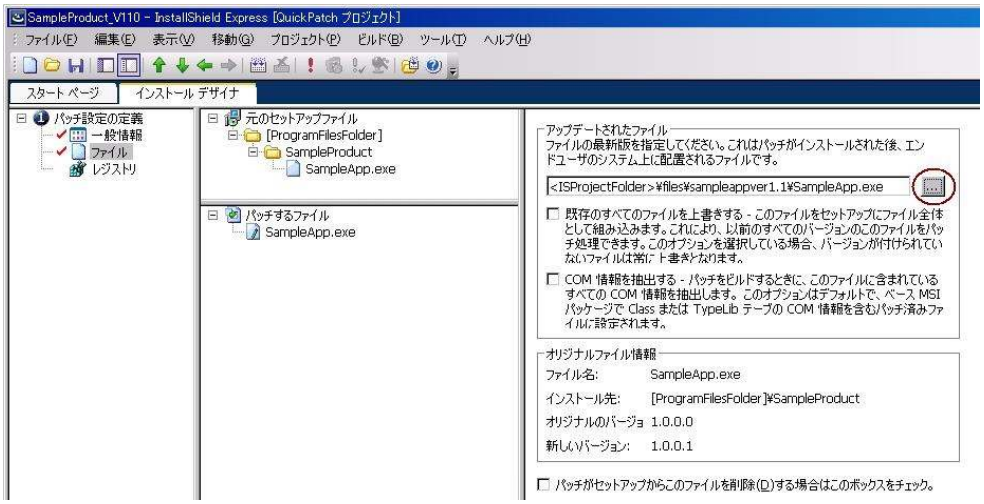
※QuickPatch プロジェクトにて行える変更は ファイルの更新・追加・削除/レジストリエントリの更新・追加・削除 のみとなります。

1. ファイルの更新等を行います。[①パッチ設定の定義]－[ファイル]ビューにて、[パッチするファイル]を右クリックして[既存のファイルをパッチする]を選択します



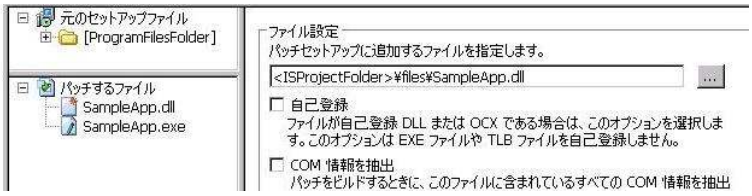
2. [ファイルの選択ダイアログ]にてアップグレードの対象とする SampleApp.exe を選びます。

3. [パッチするファイル]に SampleApp.exe が追加されますので、右のペインの[アップデートされたファイル]に更新を行うファイル SampleApp.exe（Ver.1.0.0.1）を指定します



4. アップグレードではなく新規にファイルを追加する場合は、[①パッチ設定の定義]－[ファイル]ビューー［パッチするファイル]を右クリックして[新規ファイルの挿入]を選択して、右のペインよりファイルの追加を行います





5. レジストリエントリの追加を行います。［①パッチ設定の定義]－[レジストリ]を選択して上部の「ビュー フィルタ」に「常にインストール」機能を選択します。



6. [インストール先コンピュータの[レジストリ]ビュー]にて任意のキーを右クリックして[新規]を選び追加するレジストリキー・レジストリ値を作成します。この例では HKLM¥SOFTWARE¥Networld¥SampleProduct キーの値 Version を 1.10.0000 に変更して、「Upgraded」という値を新規に追加しています。



Update.exe のビルド/実行

QuickPatch プロジェクトのビルドを行い、Update.exe を生成します。

1. ツールバー[ビルド]－[ビルド(B)]を選び(または F7ボタン)ビルドを実行します。

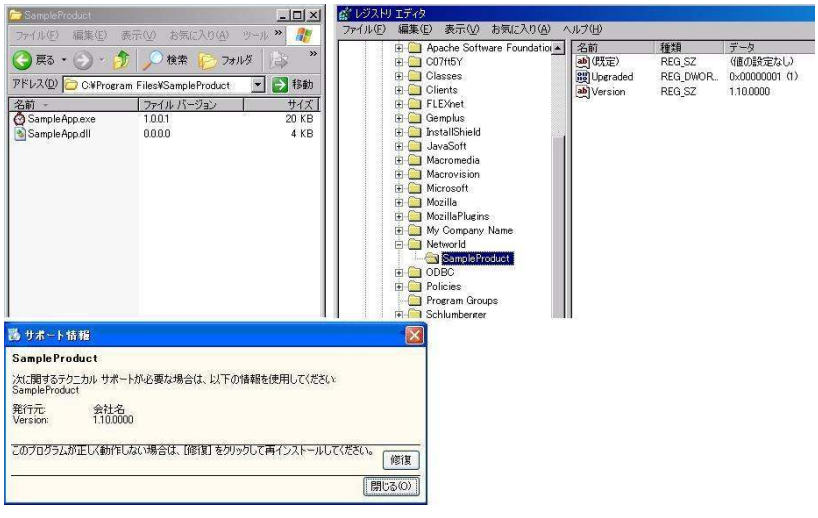


※ビルド時に Update.exe と共に生成される「UpdatedImage」フォルダ内のビルドイメージは作成した Update.exe に対して次のバージョンの QuickPatch プロジェクトを作成する場合に必要となります。こちらのフォルダは QuickPatch プロジェクトと合わせて必ず保存してください。

2. ビルドされた Update.exe を実行します。



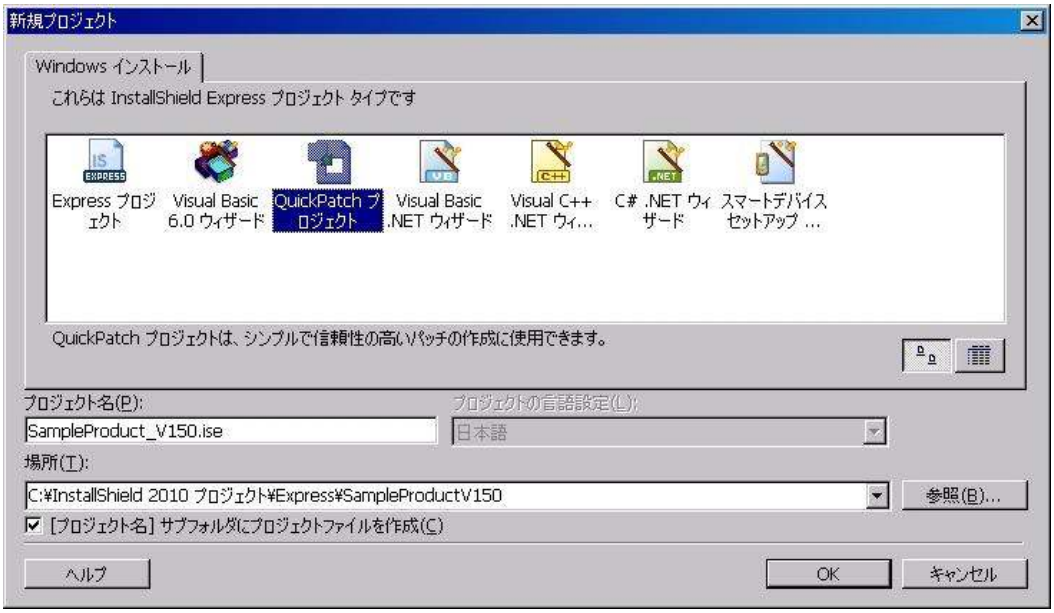
3. アップグレード後、製品のバージョンが [1.10.000] になっていることを確認します。また、ファイルやレジストリエントリに関しても更新・追加が行われていることを確認します。



既存の QuickPatch プロジェクトに対する新規 QuickPatch プロジェクトの作成

InstallShield Express では既存の QuickPatch プロジェクトを更新するための新規 QuickPatch プロジェクトを作成することも可能です。 以下は Update.exe により更新された製品 Ver1.10.0000 を Ver 1.50.0000 に更新する QuickPatch プロジェクトを作成する手順です。

1. SampleProduct_V110.ise（Ver1.10.0000 プロジェクト）を開いた状態で、[ファイル]－[新規作成]を選択し、プロジェクトタイプに「QuickPatch プロジェクト」を選択して、ファイル名を SampleProduct_V115.ise として保存します。（QuickPatch プロジェクトではサブフォルダ作成のオプションを使用しても、プロジェクト名のフォルダが作成されませんので、フォルダの作成を行ってからそのフォルダにプロジェクトを保存することをお勧めします）



※既存 QuickPatch プロジェクトに対して新規 QuickPatch プロジェクトを作成した場合、適用対象となる QuickPatch プロジェクトは読み取り専用属性が設定され、変更することができなくなります。

2. 完了ダイアログにて[完了]ボタンを押してウィザードを終了します。 QuickPatch プロジェクトが新規作成されますので[①パッチの設定]－[一般情報]－[製品のプロパティ]ビューにて[QuickPatch バージョン]のバージョンを[1.50.000] に変更します。ファイルやレジストリエントリをこれまでの手順を参考に変更します。

3. 作成したパッチの適用可能バージョンや作成履歴は[①パッチ設定の定義]－[一般情報]－[履歴]ビューにて確認可能です。



QuickPatch プロジェクトを使用する場合の注意点

QuickPatch プロジェクトを使用する場合、プロジェクトの管理方法に関していくつか注意点がございます。

■QuickPatch プロジェクトで可能な変更

QuickPatch プロジェクトでは、旧バージョンに対して「ファイルの追加・更新・削除およびレジストリエントリの追加・更新・削除」のみが変更可能です。これ以上の動作をアップグレードインストーラに実装する場合には、メジャーアップグレードとしてフルメディアの Setup.exe を使用する必要がございます。メジャーアップグレードインストーラの作成方法は以下の FAQ をご参照ください。

ID:00001473 マイナーアップグレードとメジャーアップグレードの作成方法

http://hds.networld.co.jp/helpdesk/support/faq_info.jsp?KBNO=00001473

■Update.exe の適用対象となる旧プロジェクトは変更してはいけません

QuickPatch プロジェクト作成後に適用対象となる Express プロジェクトにて再ビルドをしてインストーラ(ビルドイメージ)を再作成すると、Update.exe の適用対象となるビルドイメージが変更されてしまうため、その QuickPatch プロジェクトでは Update.exe をビルドできなくなります。また既存の QuickPatch プロジェクトに対して新規 QuickPatch プロジェクトを作成した場合は、適用対象となる既存の QuickPatch プロジェクトは自動的に読み取り専用属性となり編集ができなくなります。

■ビルドイメージを必ず保存してください

既存の QuickPatch プロジェクトに対して次バージョンの QuickPatch プロジェクトを作成する場合、旧バージョンの Update.exe のビルド時に「UpdatedImage」フォルダ内に生成されたビルドイメージが必要となります。QuickPatch プロジェクトに対する QuickPatch プロジェクトの作成をご検討の場合は、ビルド時に生成される<プロジェクト名>フォルダ全体をそのプロジェクトと合わせてそのまま保存してください。

※このビルドイメージを紛失した場合、QuickPatch プロジェクトに対して QuickPatch プロジェクトを作成することはできません。(QuickPatch プロジェクトを再度ビルドすることで MSI ファイル作り直しても、生成されるパッチは正しく適用できません。)

ビルドイメージの内容例:

